



航空貨物から過去最高量の覚醒剤を摘発

～令和 6 年の成田国際空港における関税法違反事件の取締り状況～

令和 6 年に摘発した不正薬物（※1）の密輸入事犯は、摘発件数 83 件（前年比約 45%減）、押収量約 520kg（※2）（同約 37%減）であった。

内訳は、覚醒剤 32 件（同約 61%減）/約 419kg（同約 36%減）、大麻 18 件（同約 14%減）/約 58kg（同約 48%減）、麻薬 32 件（同約 30%減）/約 44kg（同約 29%減）/約 1 万錠（同約 60%減）であった。

金地金等密輸入事犯の摘発件数は 215 件（前年比約 2 倍）、押収量は約 305kg（同約 2.5 倍）であった。

【主な特徴】

- 覚醒剤密輸入 1 事犯あたりの大口化が顕著
- 航空貨物での過去最高量となる約 190kg の覚醒剤を摘発
- 麻薬及び向精神薬取締法改正後、全国初となるデルタ 9 テトラヒドロカンナビノールを摘発
- MDMA 等密輸入の摘発件数が過去 5 年で最多
- 金地金等の密輸入の大幅な増加
 - ☞ ・ 前年比約 2 倍の摘発件数、約 2.5 倍の押収量
 - ・ 粉状金の摘発が激増

（※1）覚醒剤、大麻、あへん、麻薬（ヘロイン、コカイン、MDMA等）、向精神薬及び指定薬物をいう。

資料「成田国際空港における密輸入事犯摘発状況一覧表」参照。

（※2）重量等未確定につき含まれないものがある。個々の押収量についても同様。

1. 成田国際空港における密輸入事犯摘発状況一覧表

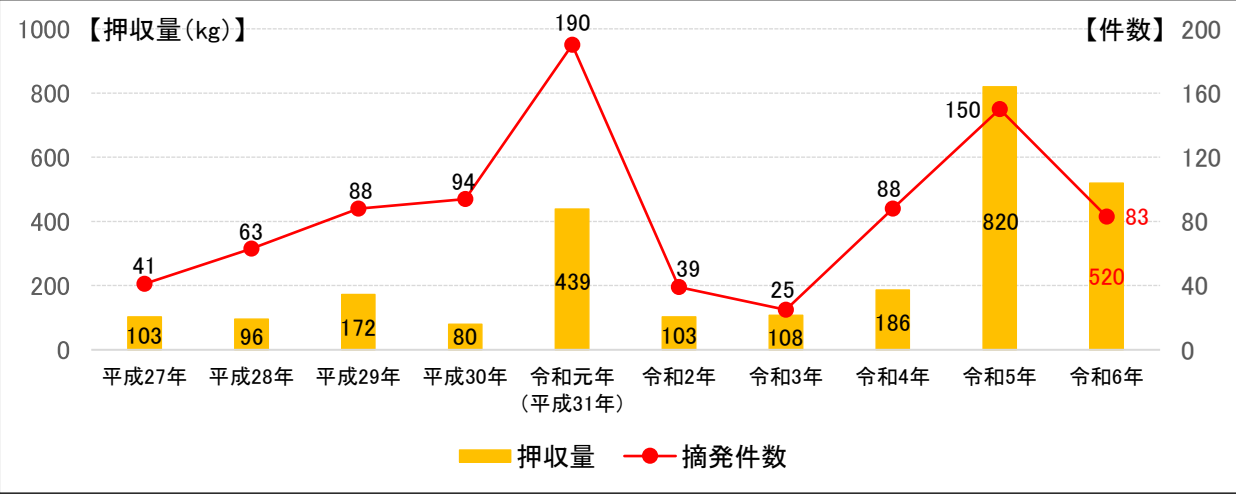
種類	年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比
覚醒剤	件	14	11	52	82	32	39%
	kg	83	84	161	649	419	64%
大 麻	件	17	6	14	21	18	86%
	kg	9	21	1	110	58	52%
大麻草	件	5	1	7	12	12	100%
	kg	3	0	1	77	40	51%
大麻樹脂	件	12	5	7	9	6	67%
	kg	6	21	0	32	18	56%
あへん	件	-	-	-	-	-	-
	kg	-	-	-	-	-	-
麻 薬	件	7	7	15	46	32	70%
	kg	11	3	24	61	44	71%
	千錠	-	0	2	26	10	40%
ヘロイン	件	-	-	-	-	-	-
	kg	-	-	-	-	-	-
コカイン	件	6	3	8	34	13	38%
	kg	11	1	20	47	18	38%
MDMA等	件	-	1	4	6	11	183%
	kg	-	-	0	9	18	208%
	千錠	-	0	2	26	10	40%
ケタミン	件	1	2	3	5	5	100%
	kg	0	2	4	5	7	132%
その他麻薬	件	-	1	-	1	3	300%
	kg	-	0	-	0	0	9070倍
	千錠	-	-	-	-	-	-
向精神薬	件	-	-	-	1	1	100%
	kg	-	-	-	-	-	-
	千錠	-	-	-	0	0	56%
指定薬物	件	1	1	7	-	-	-
	kg	0	0	1	-	-	-
合計	件	39	25	88	150	83	55%
	kg	103	108	186	820	520	63%
	千錠	0	0	2	26	10	40%

銃砲	件	-	-	-	-	-	-
	丁	-	-	-	-	-	-
うち拳銃	件	-	-	-	-	-	-
	丁	-	-	-	-	-	-
拳銃部品	件	-	-	-	-	-	-
	点	-	-	-	-	-	-

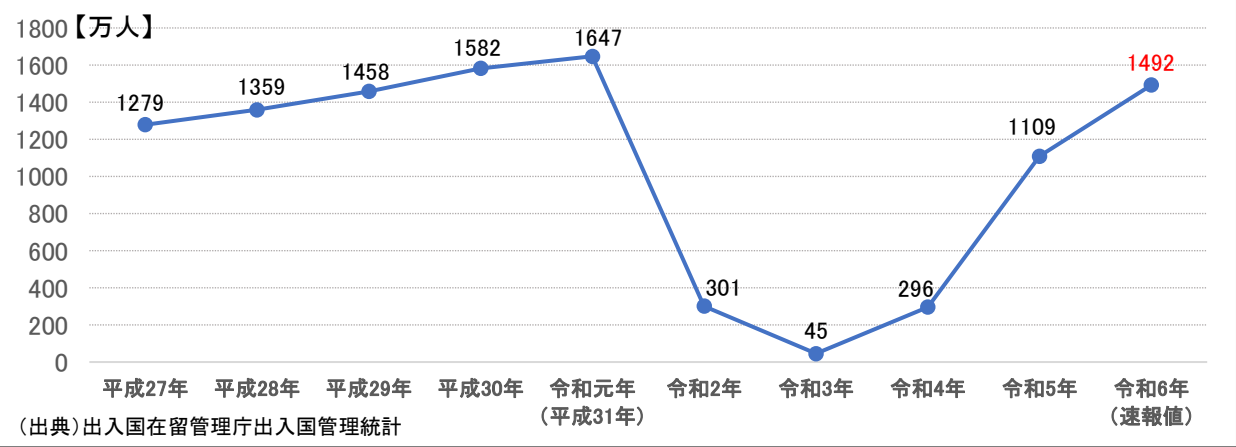
- (注) 1.税関が摘発した密輸入事犯の他、警察等他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものを含む。
2.覚醒剤は、覚醒剤及び覚醒剤原料の合計を示す。
3.大麻樹脂は、大麻樹脂その他の大麻の製品の合計を示す。
4.MDMA等は、MDMA、MDA及びMDEの合計を示す。
5.端数処理のため数値が合わないことがある。
6.数量の表記について、「0」とは500gまたは500錠未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。
7.令和6年の数値は速報値である。
8.大麻には、令和6年12月12日に施行された大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律における、麻薬である大麻及びTHC類製品を含む。THC類製品とは、大麻の有害成分であるTHC類（テトラヒドロカンナビノール類）を含有する液体や菓子類をいう。

2.不正薬物摘発実績

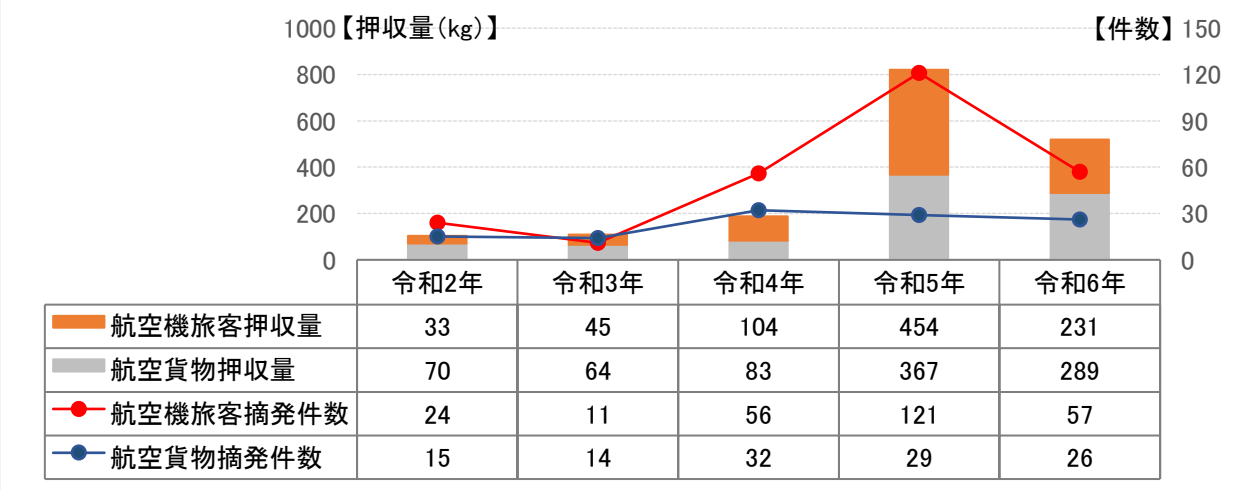
●摘発件数・押収量(平成27年から令和6年)



●【参考】成田国際空港入国者数推移(平成27年から令和6年)



●形態別摘発実績

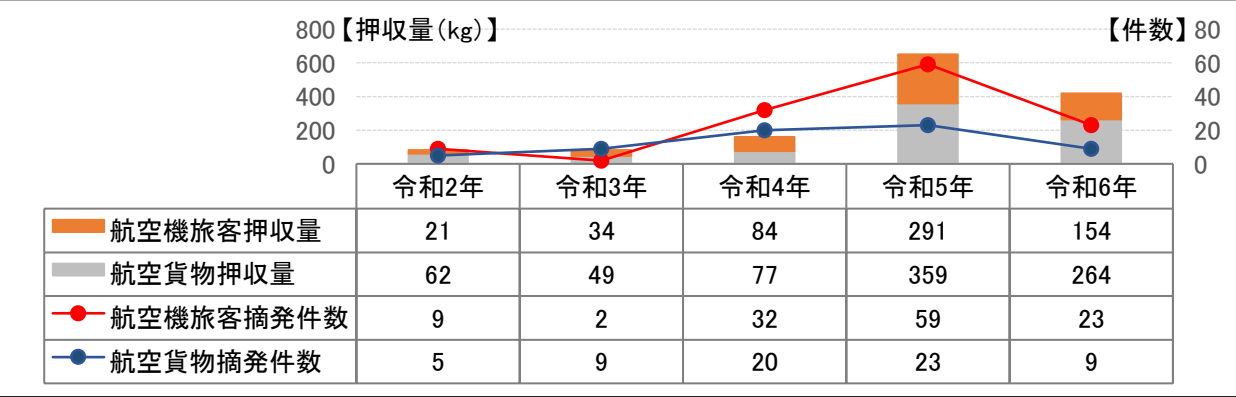


押収量については端数処理をしているため、合計値が合わないことがある。

3.覚醒剤摘発実績①

- ◆覚醒剤密輸入事犯について、密輸形態別では、航空機旅客による摘発は23件（前年比約61%減）、航空貨物による摘発は9件（同約61%減）であった。
- ◆摘発件数は前年に比べ約61%減少しているものの、押収量ベースでは約36%減に留まっており、密輸入1事犯あたりの大口化が顕著となった。
⇒・航空貨物による過去最高量となる約190kgを摘発
・航空機旅客による一度の押収量として、過去最高量となる約38kgを摘発

●形態別摘発実績

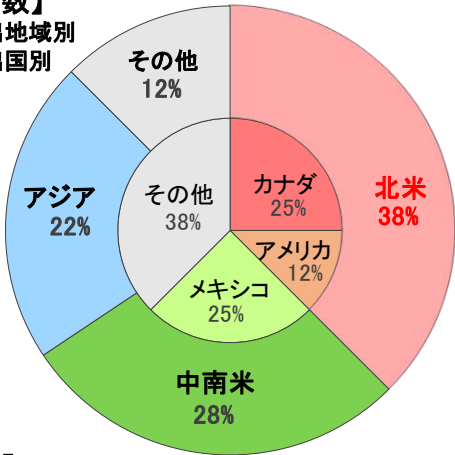


●仕出国別摘発件数・押収量

地域	国・地域	件数	押収量 (kg)
北米 (2か国・12件・約117kg)	カナダ	8	106
	アメリカ	4	11
中南米 (2か国・9件・約265kg)	メキシコ	8	75
	グアテマラ	1	190
アジア (4か国・7件・約22kg)	マレーシア	3	6
	タイ	2	8
	カンボジア	1	6
	香港	1	3
欧州 (2か国・2件・約11kg)	オランダ	1	8
	イギリス	1	3
中東 (2か国・2件・約4kg)	アラブ首長国連邦	1	2
	トルコ	1	2
合計		32件	約419kg

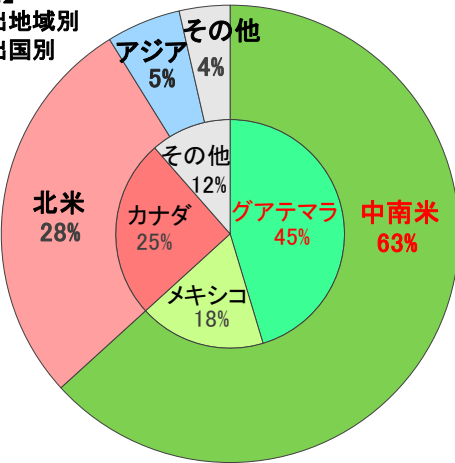
【摘発件数】

外円：仕出地域別
内円：仕出国別



【押収量】

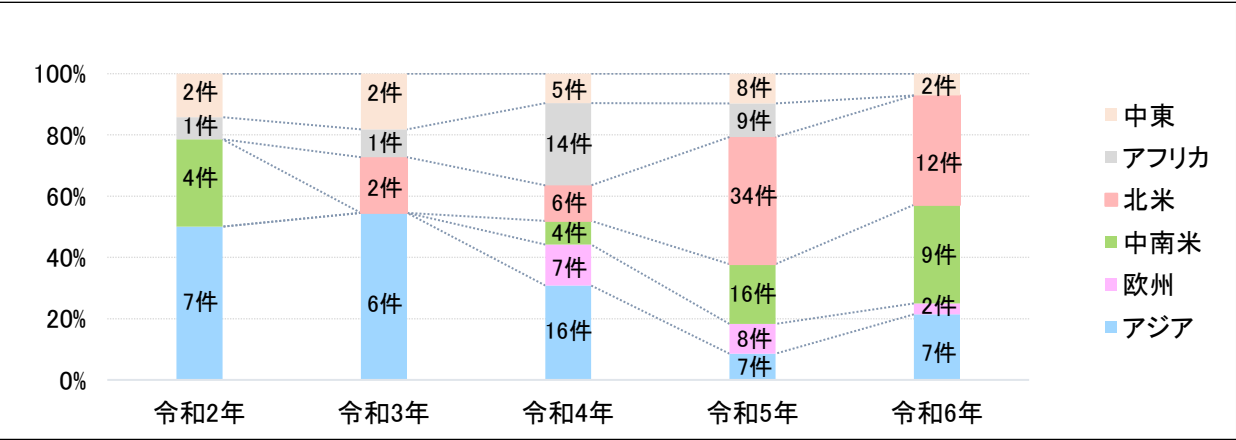
外円：仕出地域別
内円：仕出国別



押収量については端数処理をしているため、合計値が合わないことがある。

3.覚醒剤摘発実績②

●仕出地域別摘発件数推移

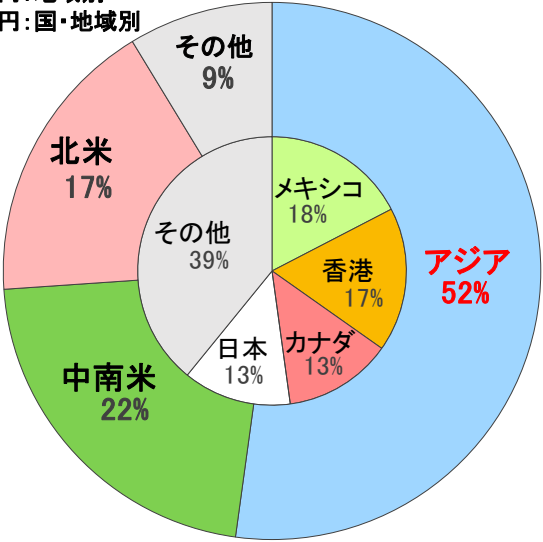


●国籍別摘発件数(航空機旅客)

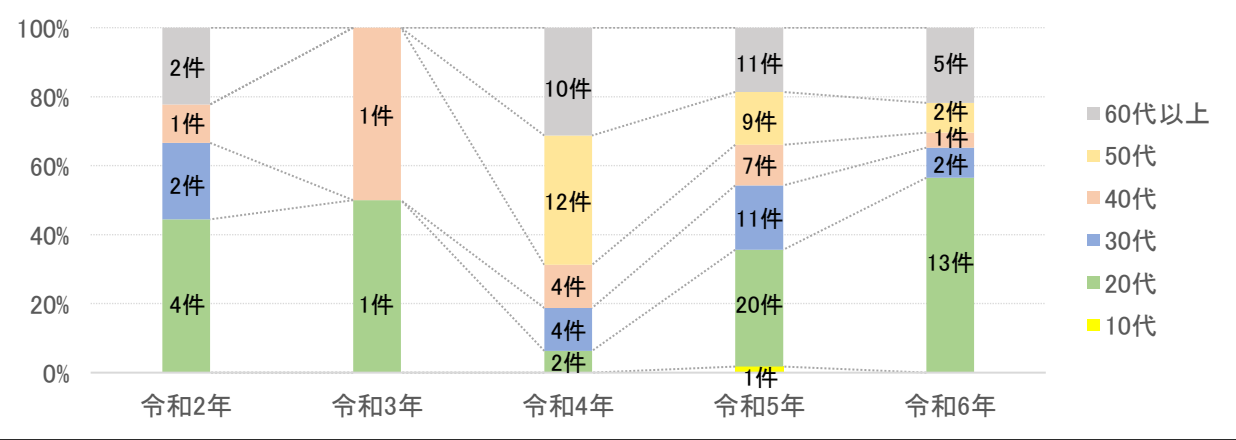
地域	国・地域	件数
アジア (6か国・12件)	香港	4
	日本	3
	タイ	2
	中国	1
	台湾	1
	マレーシア	1
中南米 (2か国・5件)	メキシコ	4
	ブラジル	1
北米 (2か国・4件)	カナダ	3
	アメリカ	1
欧州 (2か国・2件)	ラトビア	1
	ルーマニア	1
合計		23件

【国籍別】

外円:地域別
内円:国・地域別



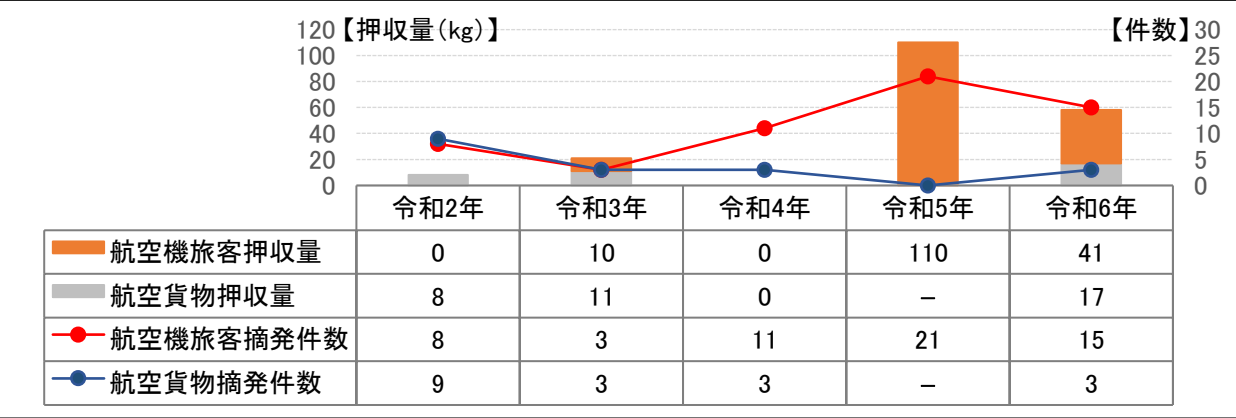
●年代別摘発件数(航空機旅客)



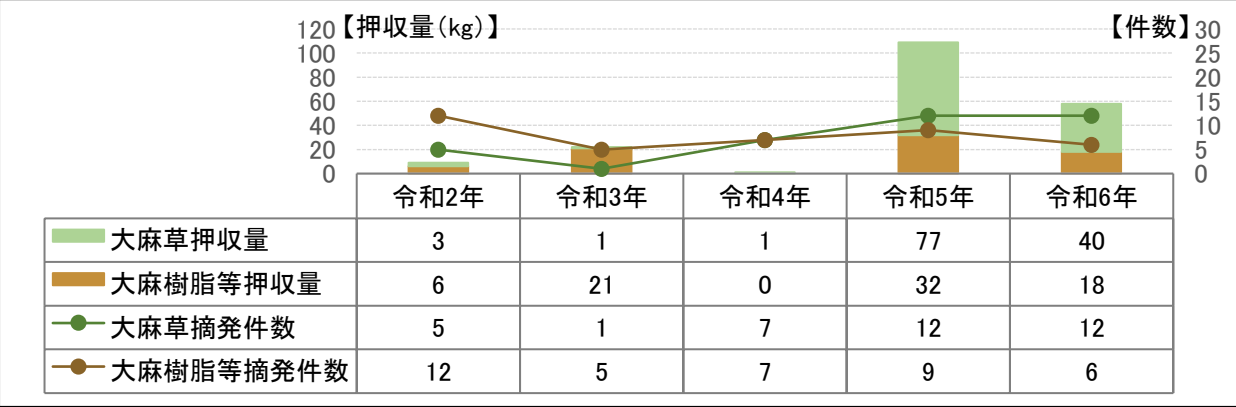
4.大麻摘発実績

- ◆大麻密輸入事犯について、密輸形態別では、航空機旅客による摘発は15件（前年比約29%減）、航空貨物による摘発は3件（同全増）であった。
- ◆麻薬及び向精神薬取締法改正後（令和6年12月12日施行）、全国初となるデルタ9テトラヒドロカンナビノールを摘発。

●形態別摘発実績



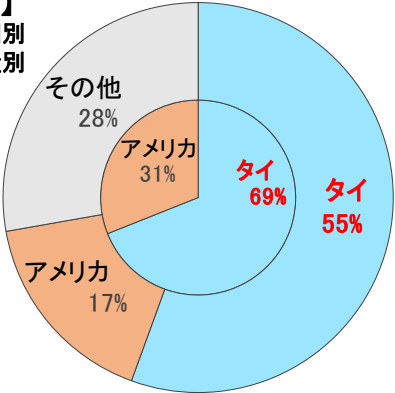
●種別摘発実績



●仕出国別摘発件数・押収量

国	件数	押収量(kg)
タイ	10	40
アメリカ	3	18
オーストラリア	1	0
シンガポール	1	0
不明	3	0
合計	18	58

【仕出国別】
外円：仕出国別
内円：押収量別

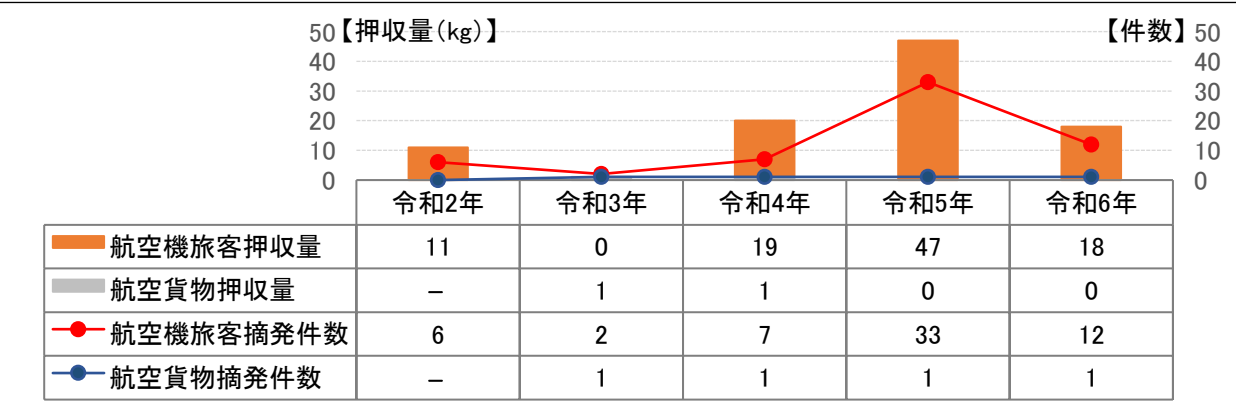


・押収量については端数処理をしているため、合計値が合わないことがある。
・数量の表記について、「0」とは500g未満の場合を示し、「—」とは全く無い場合を示す。
・大麻樹脂については、大麻リキッド等の製品、並びに令和6年12月12日に施行された大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律における、麻薬である大麻及びTHC類製品を含む。

5.麻薬摘発実績

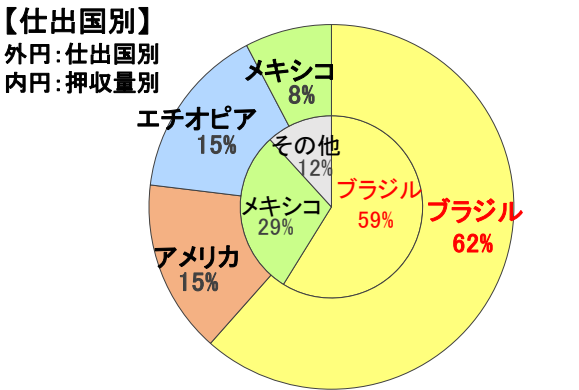
- ◆コカイン密輸入事犯について、密輸形態別では、航空機旅客による摘発は12件（前年比約64%減）、航空貨物による摘発は1件（同100%）であった。
- ◆航空機旅客によるコカインの密輸手口は、嚥下隠匿が7件であり、全体の半数以上を占めた。
- ◆MDMA密輸入事犯について、摘発件数は11件（同約1.8倍）、重量ベースの押収量は約18kg（同約2倍）であり、件数・押収量とも前年に比しほぼ倍増した。
- ◆MDMA密輸入事犯は、欧州を仕出しとするものが大半であった。

●形態別摘発実績（コカイン）



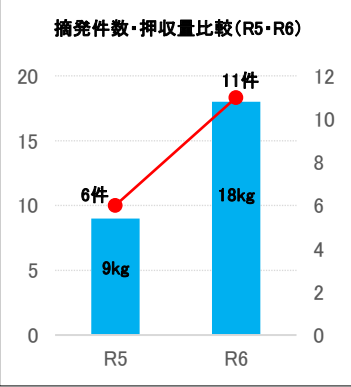
●仕出国別摘発件数・押収量（コカイン）

国	件数	押収量 (kg)
ブラジル	8	10
アメリカ	2	5
エチオピア	2	1
メキシコ	1	1
合計	13	17

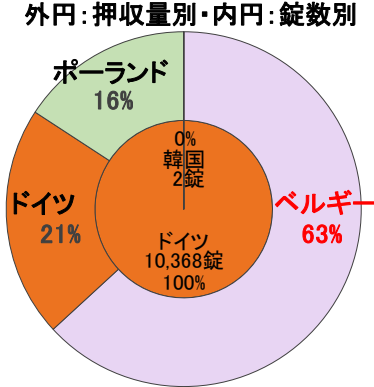


●仕出国別摘発件数・押収量（MDMA）

国	件数	押収量 (kg)	錠数
ドイツ	5	4	10,368
ベルギー	1	12	—
ポーランド	1	3	—
ルクセンブルク	1	0	—
フランス	1	0	—
スペイン	1	0	—
韓国	1	0	2
合計	11	19	10,370



【摘発実績（令和6年・仕出国別）】

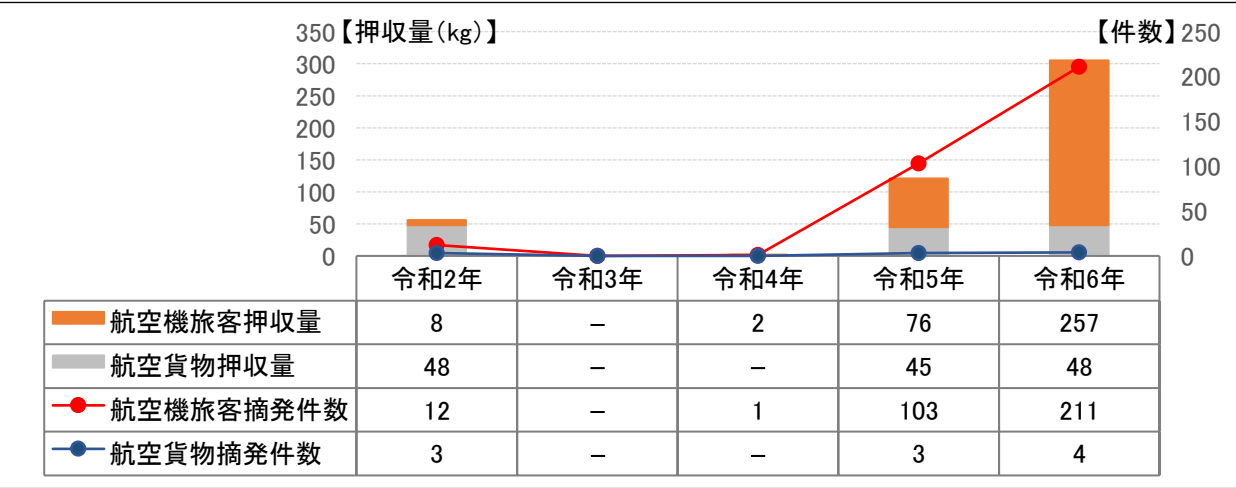


・押収量については端数処理をしているため、合計値が合わないことがある。
・数量の表記について、「0」とは500g未満の場合を示し、「—」とは全く無い場合を示す。

6.金地金等摘発実績

- ◆金地金等の密輸入事犯は、過去5年で件数・押収量ともに最多となる215件（前年比約2倍）、約305kg（同約2.5倍）の摘発を記録した。
- ◆航空機旅客による密輸入は、身辺隠匿が最も多く、次いでスーツケース等の携行品を使用した隠匿が多かった。
- ◆隠匿手口は、手荷物運搬用カートを利用した隠匿、携帯電話機やモバイルバッテリーの内部、スーツケース支柱内やキャスター部分に隠匿など、巧妙な手口が見受けられた。
- ◆金を粉状に加工したうえで密輸入するという手口が激増し、体腔内に隠匿する手口もあった。

●形態別摘発実績

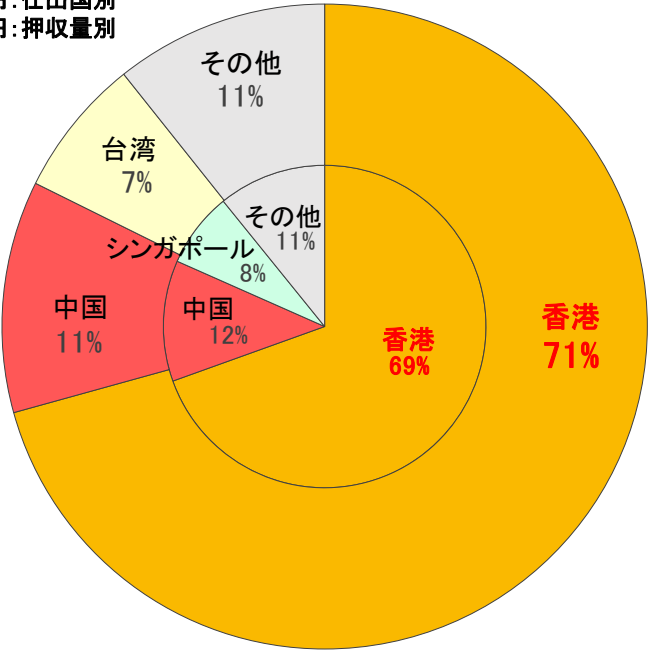


●仕出国別摘発件数・押収量

国・地域	件数	押収量 (kg)
香港	152	212
中国	25	37
台湾	15	7
シンガポール	7	23
韓国	8	9
マカオ	3	4
マレーシア	2	12
ベトナム	2	1
タイ	1	0
合計	215	305

【仕出国別】

外円:仕出国別
内円:押収量別



・押収量については端数処理をしているため、合計値が合わないことがある。
・数量の表記について、「0」とは500g未満の場合を示し、「—」とは全く無い場合を示す。

令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～覚醒剤携帯密輸入事犯～

【摘発事例1.2】

⇒カナダ来航空機旅客2名のスーツケースから覚醒剤合計約38キログラムを摘発(令和6年6月)



令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～覚醒剤携帯密輸入事犯～

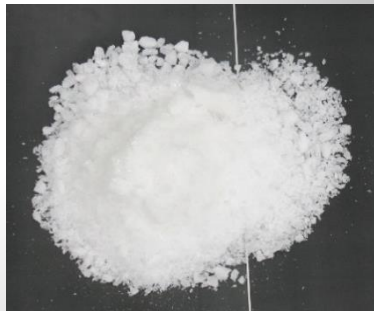
【摘発事例3】

⇒イギリス来航空機旅客のスーツケースから覚醒剤約3キログラムを摘発(令和6年1月)



【摘発事例4】

⇒タイ来航空機旅客の食品箱から覚醒剤合計約7キログラムを摘発(令和6年11月)



令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～覚醒剤航空貨物密輸入事犯～

【摘発事例5】

⇒グアテマラ来航空貨物(貯湯タンク)から覚醒剤約190キログラムを摘発(令和6年8月)



【摘発事例6】

⇒メキシコ来航空貨物(ブルーベリー)から覚醒剤約60キログラムを摘発(令和6年10月)



令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～大麻密輸入事犯～

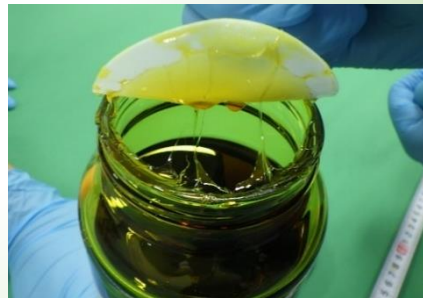
【摘発事例7】

⇒タイ来航空機旅客のスーツケースから大麻草約16キログラムを摘発(令和6年9月)



【摘発事例8】

⇒アメリカ来航空機旅客のスーツケースから液状大麻約14キログラムを摘発(令和6年10月)



令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～コカイン密輸入事犯～

【摘発事例9】

⇒ブラジル来航空機旅客の身辺に巻き付けたコカイン約5キログラムを摘発(令和6年1月)



【摘発事例10】

⇒ブラジル来航空機旅客のスーツケースからコカイン相当量を摘発(令和6年12月)



令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～コカイン(嚥下隠匿)密輸入事犯～

【摘発事例11】

⇒エチオピア来航空機旅客が嚥下したコカイン約661グラムを摘発(令和6年12月)



～MDMA密輸入事犯～

【摘発事例12】

⇒ドイツ来航空機旅客のスーツケースからMDMA10368錠を摘発(令和6年8月)

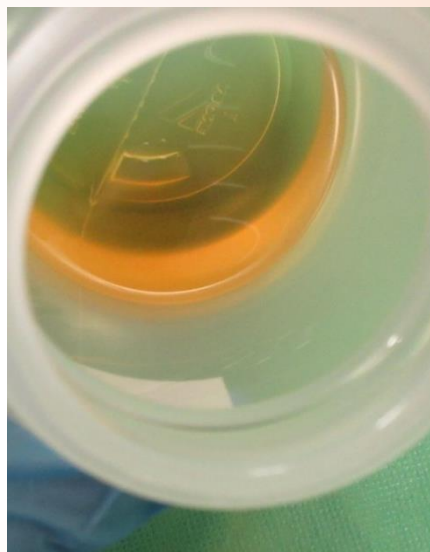


令和6年の成田国際空港での不正薬物摘発事例

～THC類密輸入事犯～

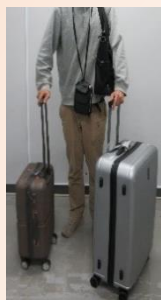
【摘発事例13】

⇒オーストラリア来航空機旅客の手荷物から麻薬であるデルタ9THCを含有する液体を摘発
(令和6年12月)



【摘発事例14】

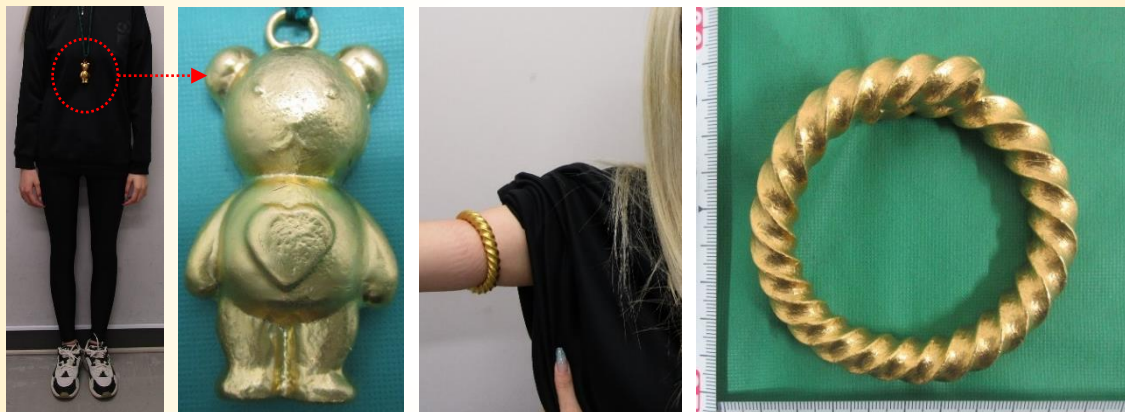
⇒タイ来航空機旅客の手荷物から麻薬であるデルタ9THCを含有する菓子を摘発
(令和6年12月)



令和6年の成田国際空港での金地金等摘発事例

【摘発事例1】

⇒台湾来航空機旅客の身辺からアクセサリ状の金を摘発(令和6年1月)



【摘発事例2】

⇒香港来航空機旅客が所持していたスマートフォン内から金を摘発(令和6年8月)



【摘発事例3】

⇒香港来航空機旅客が使用したカート裏から金を摘発(令和6年10月)



令和6年の成田国際空港での金地金等摘発事例

【摘発事例4】

⇒シンガポール来航空機旅客のズボンの内側から金地金を摘発(令和6年8月)



【摘発事例5】

⇒香港来航空機旅客の靴の中から粉状の金を摘発(令和6年6月)



【摘発事例6】

⇒香港来航空機旅客の体内から粉状の金を摘発(令和6年12月)

